# 保健統計学実習

#### 第3日目

第7回 重回帰分析

第8回 ロジスティック回帰、検査データの解析

第9回 調査データ解析(2):(web調査ツールを使用した)調査票作成、データ入力

滋賀医科大学NCD疫学研究センター 医療統計学部門

原田 亜紀子 (aharada@belle.shiga-med.ac.jp)

# 第7回 重回帰分析



### 講義・演習スケジュール 1 R, EZRの使い方、データセットの読み込み、頻度集計、記述統計,相関 8/29(木) 2 EZRのコード保存, R-studio commander 3 エクセルの基礎(1) 4 仮説検定の基礎,2群の比較(t検定,Wilcoxon検定) 8/30(金) 5 カイ二乗検定、マクネマー検定 6 調査データ解析(1):調査票作成、データ入力 9/2(月) 7 重回帰分析 8 ロジスティック回帰,検査データの解析 9 調査データ解析(2):(web調査ツールを使用した)調査票作成、データ入力 9/5(木) 10 分散分析 11 サンプルサイズ 12 調査データ解析(3):解析用データの作成 9/6(金) 13 主成分分析、因子分析、クラスター分析 14 解析実習・まとめ (復習・課題の時間)

## 解析の手順 線形モデルのあてはめとモデル診断

### なぜ線形モデルを使うのか?

- データ削減
- 予測式を算出したい 🛑 決定係数、残差の検討を丁寧に行う
- パラメータ値の解釈(従属変数に対する独立変数の影響)

### 偏回帰係数の有意性を重視してモデルを作る 仮定は正しいか?

- y = x + 誤差
- 誤差の変動:平均は0,分散は等しい,独立,ほぼ正規分布

### 回帰診断

• 残差の検討と影響度分析

# 線形回帰

- •xに対するyの線形回帰
- y:応答, 従属変数
- •x:説明変数,独立変数
- 予測

$$\hat{y} = a + bx$$

• 残差

y - ŷ

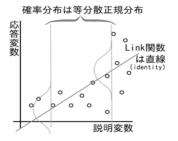


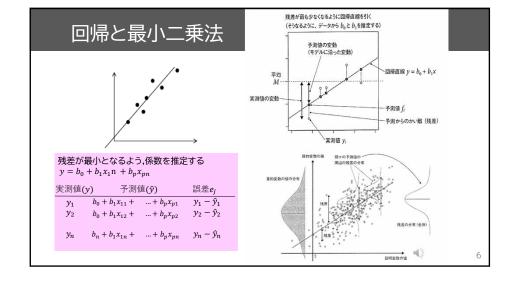
Fig.1:(General) liner model

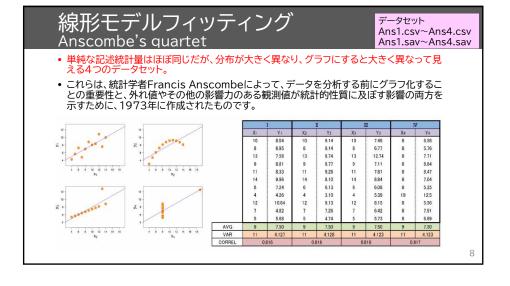
yという結果に対して、原因と考えられるxがどのように影響しているかを検討する手法

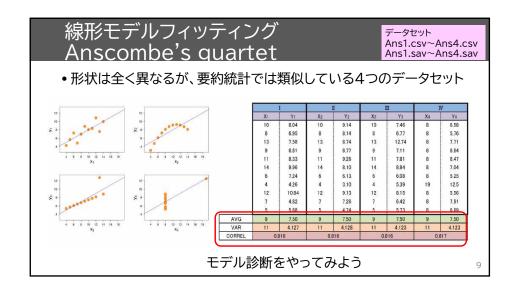
(例) 握力 =  $a + b_1 \times (年齢) + b_2 \times (性別) + b_3 \times (体重)$ 

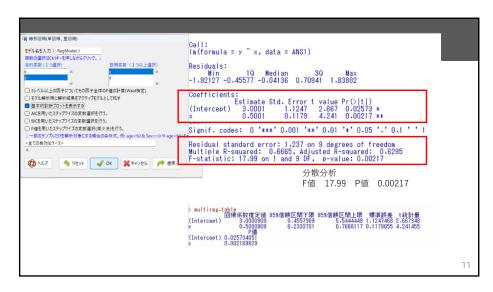
1. モデルのあてはまり

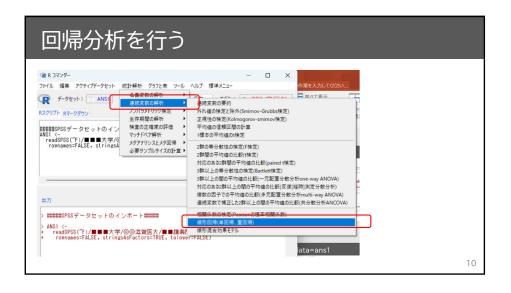
- 2. 変数選択によるモデル構築
- 3. モデルの解釈・評価











## 偏回帰係数、標準偏回帰係数

### 偏回帰係数

- 偏回帰係数は重回帰モデルにおける独立変数の係数である
- 他の独立変数の影響を除外した回帰係数となる

### 標準偏回帰係数( $\beta$ )

- 平均0、分散1に標準化した単位に依存しない係数(変数間の比較 が行えるようにする)
- 各独立変数が従属変数にどのくらい影響しているかを評価できる

## 標準偏回帰係数

•標準偏回帰係数(A<sub>i</sub>) a<sub>i</sub> Sx:xの標準偏差, SDy:yの標準偏差

$$A_i = a_i \times \frac{SD_x}{SD_y}$$
  
=0.50×(3.31/2.03)=0.815

- •標準化したデータセットで重回帰
  - z <- scale(Ans1)
  - z <- data.frame(z)

データセットZで重回帰分析を実施

 R, R<sup>2</sup>, 調整済みR<sup>2</sup>

### 重相関係数(R)

- 重回帰式から得られる予測値と実測値の相関係数
- 1に近いほどあてはまりがよい
- 変数の数が多いと1に近づく(変数の数の影響をうける)

### 決定係数(R2)

13

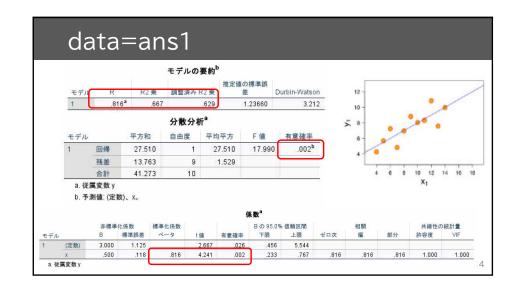
- 重回帰モデルの適合性を評価する指標
- 変数の数が多いと1に近づく(変数の数の影響をうける)

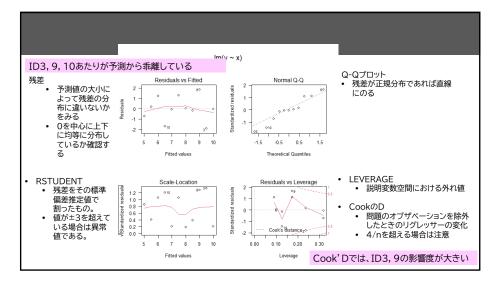
$$R^{2} = \frac{\sum_{i=1}^{n} (\hat{y}_{i} - \overline{\hat{y}}_{i})^{2}}{\sum_{i=1}^{n} (y_{i} - \overline{y}_{i})^{2}}$$

### 自由度調整済み重相関係数・決定係数

• 独立変数の数、nを補正した指標

$$\hat{R}^2 = 1 - \frac{n-1}{n-p-1} (1 - R^2)$$





## Variance inflation factor (VIF)

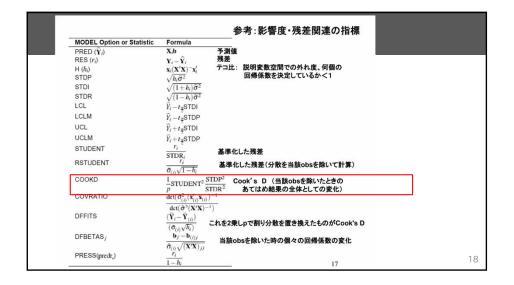
従属変数y,独立変数 $x_1,x_2,x_3,x_4$ で構築された重回帰モデルがあったとして、 $x_1$ を従属変数、残りの $x_2,x_3,x_4$ を独立変数とした 軍回帰モデルを構築し、重相関係数を求める

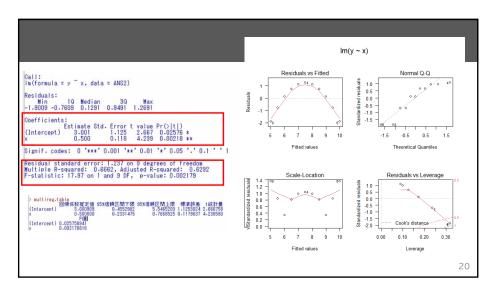
VIF=
$$\frac{1}{(1-R^2)}$$
 (分母は"許容度"とよばれる)

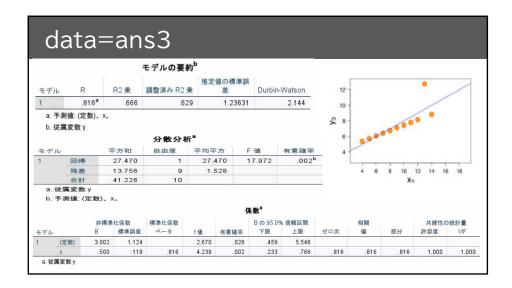
VIF≥10 となるような変数は除いた方がよい

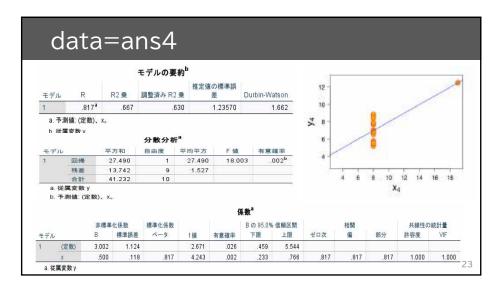
17

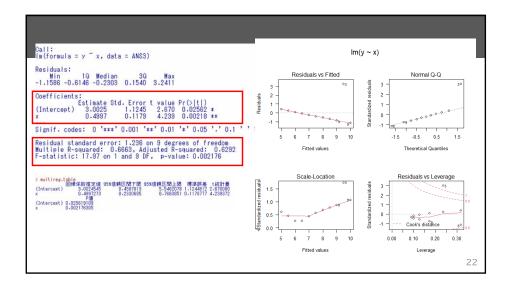
data=ans2 推定値の標準誤 差 Durbin-Watson R2 乗 調整済みR2 乗 b. 従属変数 v 分散分析a モデル 平方和 自由度 平均平方 F値 有意確率 27.500 27.500 17.966 .002b 回傷 13.776 残差 10 12 14 16 18 41.276 合計 10  $X_2$ a. 従属変数 v b. 予測值: (定数)、x... 係数a 標準誤差 有意確率 下限 (定数) 3.001 2.667 .026 5.547 19 a. 従属変数 v

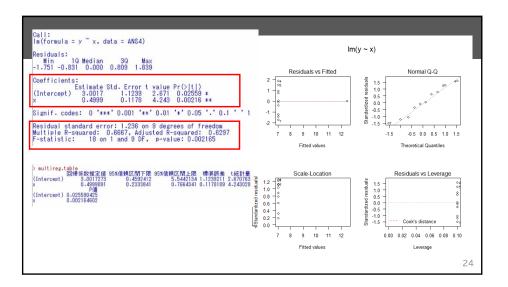












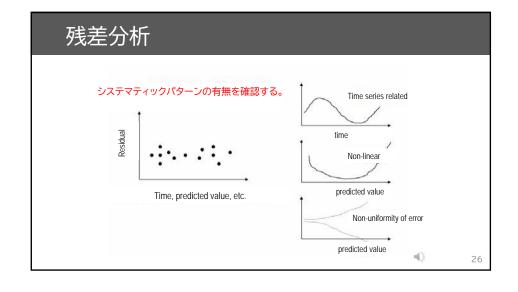
## ans1~ans4

- 4つの回帰について、これだけ異なるデータの集まりだが、同じような 直線が引けてしまう
  - グラフを見ずに、平均、回帰係数などの数値だけみるとほぼ同じ
- 残差に系統的なパターンが残されているなら、さらにモデル化すべき

1. モデルのあてはまり

- 2. 変数選択によるモデル構築
- 3. モデルの解釈・評価

27



## 変数選択

相関の高い変数をモデルに含めると係数が不安定になる(多重共線性)。

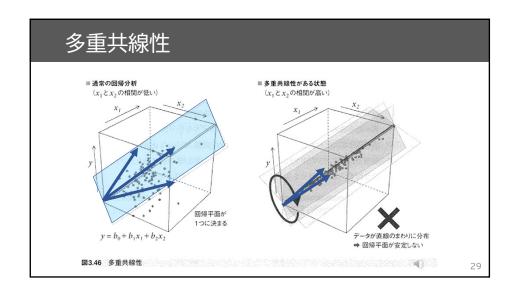
### <対策>

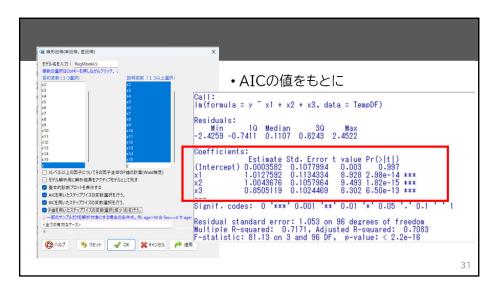
25

① 変数の選択

ALL(全変数を一度に入力) FORWARD(前方、増加) BACKWARD(後方、減少) STEPWISE(増加/減少)を使用する。

- ② 合成変数の作成
- ③ 事前情報の利用(ベイズ型)





## 演習 変数選択

データセット select.csv select.sav

"select.csv"データは、y=x1+x2+x3+誤差(x1, x2, x3は独立)というモデルで作られています。

- x4 は x1 と高い相関がある
- x5は x2と高い相関がある
- x6-x15は互いに独立であり、yとも独立である。

変数選択を適用して、どのような結果が得られるか確認してください。

x1-x15を用いてモデルを作成する。相関の高い変数を含む場合、どのような変数が選択されるのか





## 重回帰分析 注意点

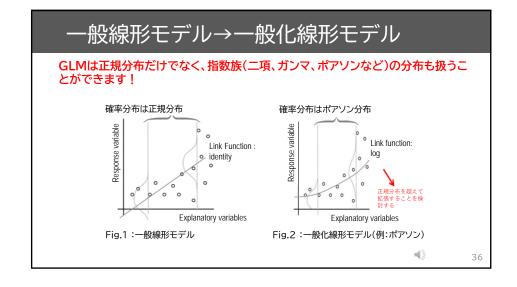
- 1. 目的の再確認
- 1)予測式を算出したい
  - →決定係数や残差の検討を詳細に
- 2)パラメータ値の解釈(従属変数に対する独立変数の影響)
  - →偏回帰係数の有意性を重視してモデルを構築する
  - →仮説に合わせた変数の投入(強制投入)
- 2. 標本数と独立変数の数

独立変数1つに対しn≥20~30程度が目安

- 3. 外れ値のチェック
- 4. 独立変数間の相関
- 5. 正規分布からのズレが大きい場合は変数変換(対数変換など)

-般線形モデル -般化線形モデル • Development of linear models Statistical Inference 階層ベイズモデル MCMC より柔軟な統計モデリング 一般化線形混合モデル 最尤法 個人差や部位差などのランダ ム効果への対応 一般化線形モデル 正規分布以外の確率分布を扱う Poisson 一般線形モデル 最小二乗法 Linear regression Analysis of Variance 35

# 第8回 ロジスティック回帰



## GLMは以下の3つの要素で構成される

- 1. 確率分布の指数族 指数族(二項、ガンマ、ポアソンなど)
- 2. 線形予測量  $\eta = X\beta$

線形予測量 $(\eta)$ は独立変数の情報をモデルに取り込む量である。

ηは未知パラメータβの線形結合(したがって「線形」)で表され、線形結合の係数は独立変数の行列Xとして表される。

3. リンク関数

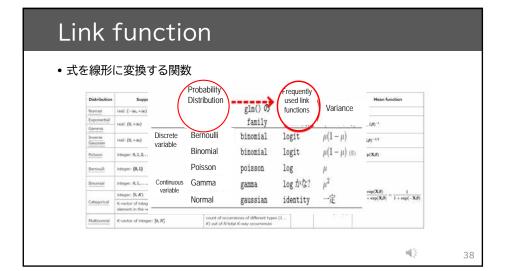
ある式を線形に変換する関数。

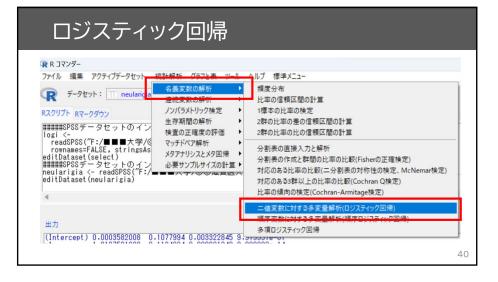
37

## 回帰モデルの拡張

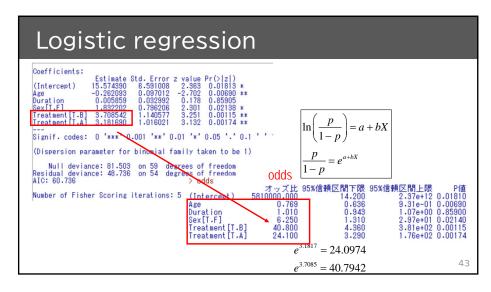
- 0-1データに対するロジスティック回帰
- 頻度データに対するポアソン回帰
- 生存時間データに対するCox回帰
- 一般化推定方程式(Generalized Estimating Equation)
  - 反復測定データに対するGEE
- 個人差、階層、繰り返しを扱うことができるモデル(混合モデル)
  - 線型
  - 一般化線型:
  - 非線型:

4()









## Logistic regression

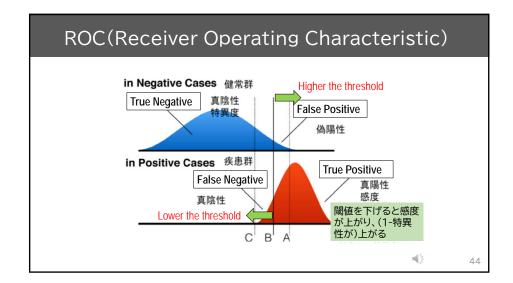
ロジスティック回帰では、従属変数はオッズの自然対数であるロジットである、

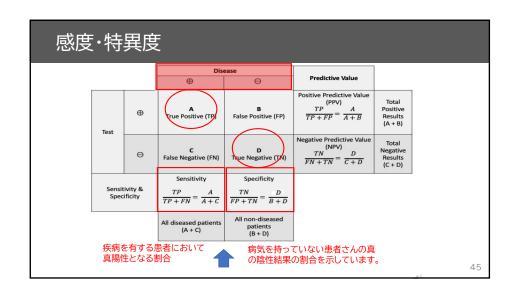
$$\log(odds) = logit(P) = \ln\left(\frac{p}{1-p}\right)$$

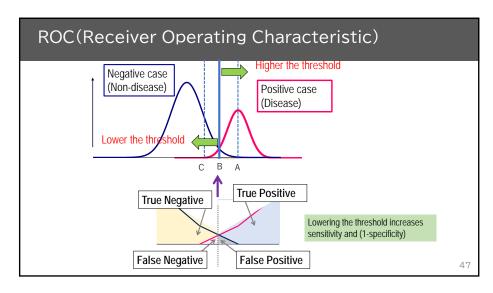
ロジットとはオッズの対数であり、オッズはPの関数である。 ロジスティッ ク回帰では、次のようになる。

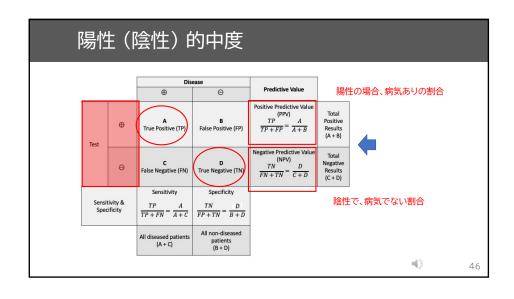
$$logit(P) = ln\left(\frac{p}{1-p}\right) = a + bX$$

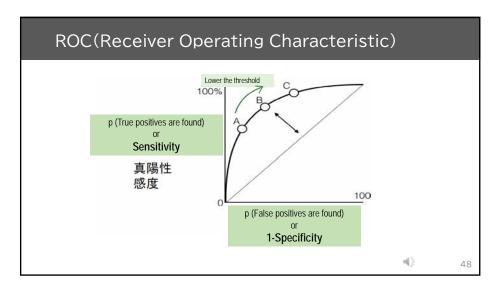
$$\frac{1-p}{1-p} = \frac{e^{a+bx}}{e^{a+bx}}$$

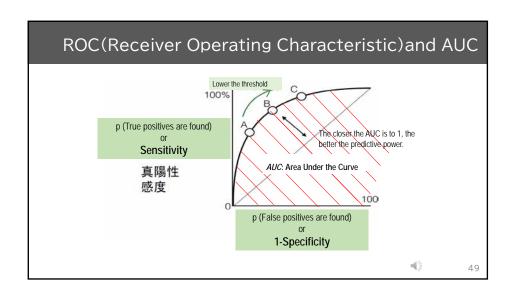


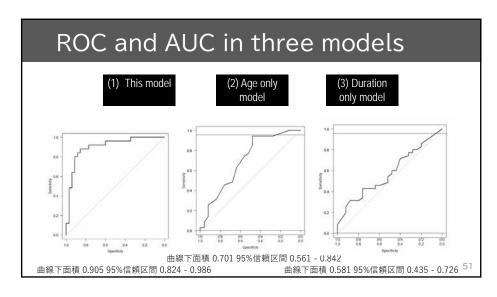


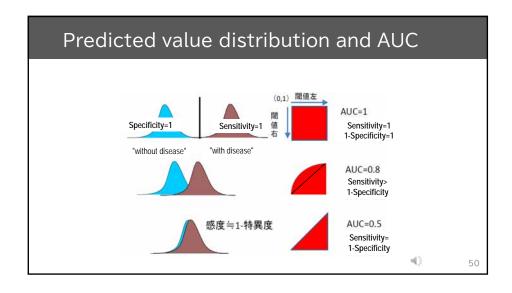


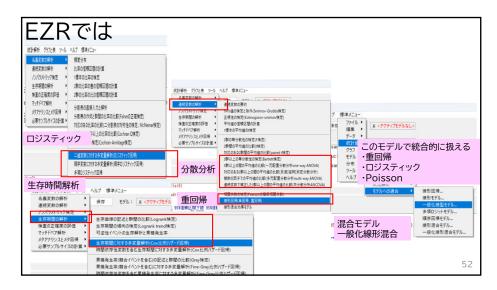








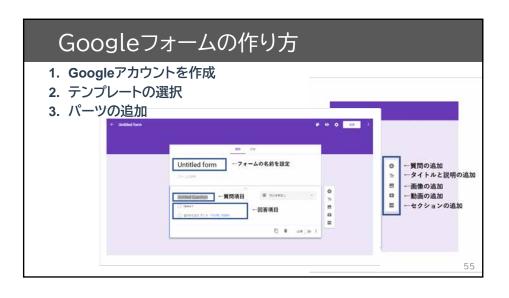




第9回

調査データ解析(2):Web調査ツールを使用した調査表作成・データ入力 データセット比較

3



## Googleフォームとは

- Googleフォームとは、Googleのサービスの1つとして提供されているフォーム作成ツール
- 使いやすさや無料で使える点などから、アンケートフォームや問い合わせフォーム、キャンペーンへの申し込みフォームなど、様々な用途で利用されている
- フォームを簡単に作成できるだけでなく、集計や分析をアシストする機能もある













## 調査項目例

人格特性: 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)

- 10問7段階評価(1~7点)
- 外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性を評価
- 得点が高いほど各項目が強い

### クロノタイプ(朝方夜型)

•19問

【クロノタイプ判定】

[70~86点]明らかな朝型 [59~69点]ほぼ朝型 [42~58点]中間型 [31~41点]ほぼ夜型 [16~30点]明らかな夜型

#### アテネ睡眠調査票

·8問(0~3)

・[1~3点]・・・睡眠がとれています [4~5点]・・・不眠症の疑いが少しあります

[6点以上]・・・不眠症の可能性が高いです



## フォームを作成し回答しあう

- 条件
  - 数値情報を調査する項目を設定(仮想でも良い)
  - 自由記載の欄を作成
    - 必ず入力してもらう



## Google Formの調査データ のデータセット化

睡眠調査データ

- 睡眠調査データを配布します
  - データ(1)とデータ(2)があります
  - データ(1)を原本とします。データ(2)は同じデータを入力したファイルです (注:早めにデータ回収を打ち切り、重複送信をそのままにしてあるという設定。 二つはデータが一致しない可能性がある)。
- ◆この二つのデータが一致しているか、確認してもらいます。
  - いくつか入力間違いも作っています。

67

## • 睡眠調査データを比較(compare)してみよう

• どの部分の入力が間違っているか特定しよう





COMPARE

例題 ae.sav ae2.sav Sleep a.csv Sleep q2.csv

データセットを比較するには?

調査後にデータを入力した場合、入力間違いをしている可能性があります。 <見つける方法>

- ・データクリーニングで判別する場合もある (レンジチェック、外れ値などのチェック)
- ・2回入力(あるいは他の人が入力したもの)と比較
- ⇒臨床試験などではこのような方法をとります
- ⇒ダブルエントリーといいます。
- ・この二つのデータセットを比較する方法を行います。 R studioを使用します。

  - 「arsenal」というパッケージを使用します。



## R-studio

- 「ae」と「ae2」というデータセットを読み込む
- 「arsenal」というパッケージを導入

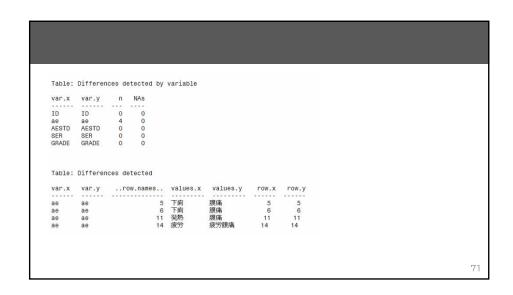
#### ae <-

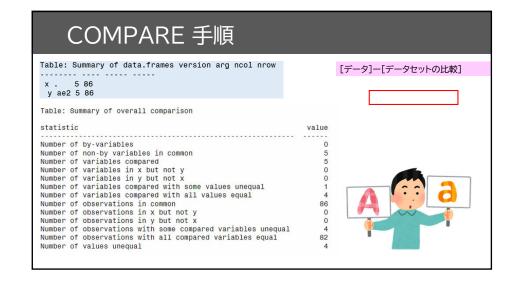
read\_sav('https://raw.githubusercontent.com/harabou/Biostat\_Kyoto\_pref/main/data/%2303/compare/ae.csv')

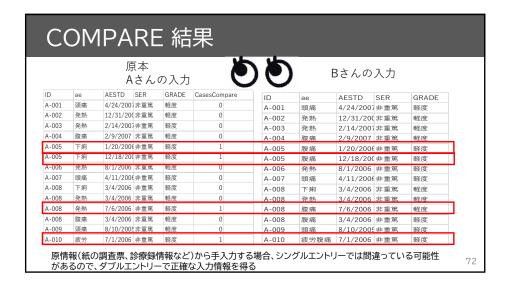
#### ae2 <-

read\_sav('https://raw.githubusercontent.com/harabou/Biostat\_Kyoto\_pref/main/data/%2303/compare/ae2.csv')

install.packages("arsenal")
library(arsenal)
comparedf(ae, ae2)
summary(comparedf(ae, ae2))







# 第3日目 課題

- 1) 各自の調査票
  - ・調査票を作成
  - ・リンク先を入力
  - ・コード表の作成
- 2) 睡眠調査データ(配布)

これまでの演習でやってきたことを生かして、集計を行う

·基本集計 :EZR「記述統計」

余力があれば:分析:クロノタイプ(朝型・夜型)と睡眠スコア